

会 議 録 要 旨

会議名	令和4年度 第7回藤沢市下水道運営審議会	
開催日時	2022年（令和4年）10月31日（月）午前10時00分～午後0時06分	
開催場所	本庁舎5-1、5-2会議室	傍聴者数
		0人
出席者	会 長	杉 淵 武
	委 員	稲田 圭祐 井上 美鈴 大内 禎 齋藤 力良 小林 敦子 船橋 國比古 橋本 修 深澤 潤子 矢出 乃大
	事務局	鈴木下水道部長 [下水道総務課] 近藤参事・指旗主幹・細谷主幹・藤原主幹・工藤補佐・鈴木補佐 利根補佐・外山専任補佐・三澤上級主査・吉原専任上級主査 矢部上級主査・東高西主任・田中・茂垣 [下水道管路課] 中村課長・小松補佐・矢口補佐 [下水道施設課] 濱野参事・竹内辻堂浄化センター長・佐藤大清水浄化センター長 田中補佐・鷺塚補佐・斉藤補佐・山村補佐
議題及び公開・非公開の別	1 藤沢市公共下水道事業の概要について 2 藤沢市下水道会計のしくみについて 3 令和3年度藤沢市下水道事業費特別会計決算について 4 今後の下水道事業における整備と運営のあり方について～状況報告～ その他 (すべて公開)	
非公開の理由		
審議等の概要	<p>《議題》</p> <p>1 藤沢市公共下水道事業の概要について 資料4に基づき説明。</p> <p>【質疑】</p> <p>(1) 下水道管などのインフラは昭和初期につくられ、この先補修が必要になっていくと認識しておりますが、藤沢市の下水道管の修繕はどのようなペースで行われているのか。壊れたら直すのか、それとも計画的に修復、修繕しているのか。</p> <p>《回答》</p> <p>下水道管の修繕や改築は、今までは事故が起きてから直すということ続けてきましたが、これからはストックマネジメント実施方針に基づき、計画的に点検調査、修繕、改築を行い進めてまいります。</p> <p>《議題》</p> <p>2 藤沢市下水道会計のしくみについて 資料5に基づき説明。</p> <p>《議題》</p> <p>3 令和3年度藤沢市下水道事業費特別会計決算について 資料6に基づき説明。</p>	

【質疑】

(2) 10ページの令和3年度の経営成績のところの長期前受金戻入はあまり聞き慣れない、公営企業会計の特別な勘定科目だと思います。あまりなじみがないものですので御説明いただきたい。

《回答》

物を建設したときに、その財源となるものは企業債や国庫補助金です。この補助金分を、資産の減価償却費に合わせて収益化するものです。会計の制度が変わる前は、国庫補助金を除いた分で償却を行う制度でしたが、それだと全体の資産が分からなくなることから、会計制度の見直しに伴い新たに長期前受金戻入ができたものです。

(3) 経費回収率が、平成29年は100%を超えていたのが平成30年、令和元年は少し落ち込み、また令和2年から令和3年と100%を超えたのはどういう改善がなされたんでしょうか。

《回答》

経費回収率が100%を切った平成30年では、江の島で管渠の事故があり、維持管理費が増えた影響で経費回収率が100%を切りました。

(4) 10ページの長期前受金戻入は、資産のうち国庫補助金を財源としている部分の減価償却費に当たる部分とのことですが、減価償却費は国庫補助金以外のものになるのか。企業債や一般会計負担金で作られたものの部分が減価償却費なのか。長期前受金は国庫補助金の部分だけなのか。

《回答》

減価償却費は、資産全体に対して計上しています。財源とした国庫補助金や一般会計負担金を、耐用年数に応じて収入として収益化した金額を長期前受金戻入として計上しております。一般会計負担金も同じく長期前受金戻入となります。

(5) 当年度の利益は、この純利益分という理解でよろしいのか。財布が2つあるもので、利益分はどこなのか分かりにくいです。

《回答》

10ページの左側の維持管理に関する収益的収支の純利益がその年の経営成績となります。

(6) 経営の安定化の指標というのは、経費回収率をもって評価・判断をするということになるのでしょうか。利益が多い、少ないということは、経営の安定化からは評価をしていないのでしょうか。

《回答》

黒字というのは一番大事なことになってきます。今回策定する中期経営計画では、10年間の利益を黒字にするというのを第一前提として考えています。それと同時に、経費回収率に関しましても大事な指標でございまして、100%になることにより使用料水準が適正かどうかを判断する指標となります。

《議題》

4 今後の下水道事業における整備と運営のあり方について～状況報告～

資料7に基づき説明。

【質疑】

(7) 15ページの今後の取組の表は見やすくよく分かるのですが、下水道事業を経営する中で、市民との協働・見える化(黄色の矢印)は、下水道事業を進めていくには市民の協力がなく立ち行かない部分があると思います。使用料を上げるのであれば理解していただくPRが必要で、答申の附帯意見にもあるように、使う側にも配慮した使い方をお願いしたり、説明する機会があってもいいのかなと思います。

《回答》

中期経営計画の策定にあたり、今後決算等で事業内容を公開し理解を図り、また下水道の正しい使い方や維持管理の現状など、まず市民の方との協働を図るため、情報公開等を行ってまいります。

その他

- 1 令和4年度藤沢市下水道運営審議会日程について
- 2 下水道施設見学について(辻堂浄化センター)